

2024年度 メリー★ポピinz 朝霞東ルーム

事業報告書

(保育所における自己評価)

I. 2024年度の概要 ~年度の基本方針を受けて~

子どもの「生きる力を育む(生活力の体得)」ために、座禅・雑巾掛け・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発等の日々の日課を基本として、子どもたちが自発的・意欲的に関わられるような環境、様々な経験を積んでいくことができるような環境を用意することを意識して、保育の計画、環境設定を行った。特に「ホンモノに触れる」をキーワードに、園庭のない環境下でも火・水・土に触れたり、遊びの中に日本の伝統行事を取り入れそれぞれの行事の習わしを子どもたちへ伝えたりすることに力を入れて取り組んだ。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	法人の日課・基本活動にこだわりをもって取り組む
	実践結果	座禅・雑巾掛け・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発等の日課を毎日積み重ねていくことで「私たちが育てる6つの力」の育ちに繋げることができた。
	次年度方向性	遊び・労働・食事・休息のサイクルを大切にし、午前中は目一杯身体を動かし園外活動での経験を表現(音・言葉・唄・絵・造形)に繋げる。 スタッフの日課・基本活動の理解、知識を更に深め、子どもたちが自ら参加したくなるような環境づくりに努める。
2	計画・ねらい	子どもが自ら選択をすることのできる環境づくり
	実践結果	週会議や園会議で子どもの発達や育ちを職員間で共有し、子どもたちが今どんなことに興味や関心があるのかを話し合ったうえで、その都度保育室内の環境を変えていくことで、子どもが保育室内を自由に行き来し自ら選択して遊ぶことができる環境を提供することができた。
	次年度方向性	引き続き、子どもの興味関心を職員間で共有し、子どもの発達に合わせた環境作りを行っていく。
3	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画・アプローチカリキュラムを作成し、実践する
	実践結果	1歳児から5歳児までの繋がり(連続性)のある保育ができなかった。「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」をもっと深める必要があった。
	次年度方向性	次年度は、職員一人ひとりがしっかりと子どもの発達を捉え、小学校接続を見据えた保育をしていく。その為に、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」の理解を深め、小学校見学などを積極的に行う。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子育ての喜びを分かち合い、保護者的心に入り込んだ接遇を目指す
	実践結果	夕方のお迎えラッシュ時は、お迎え対応では伝えきれない日々の保育の様子をポートフォリオにして玄関に公開し、保護者が待った気がしないよう配慮し、公開することで子どもの育ちを共有することができた。また、子どものポートフォリオだけでなく、大人(保育者)

		のポートフォリオを作成・公開し、園（保育者）を知って頂く機会となった。
	次年度方向性	引き続き、ポートフォリオの作成・公開を行っていく。それに加え、保護者の反応が分かるよう、リアクションシールやコメント欄を設けていきたい。
2	計画・ねらい	保育参加、個人面談による共育と子育て相談の充実
	実践結果	玄関ボードに保育参加や個人面談のお知らせを掲示したこと、保育参加は11家庭、個人面談は7家庭が参加してくださった。 日々の保育を見て頂く機会となり、日常の様子や不安など保護者とコミュニケーションをとる有意義な時間となった。
	次年度方向性	引き続き、保護者が気軽に参加できるよう玄関にお知らせを掲示し、保育者が声掛けをして機会を設けていく。
3	計画・ねらい	誰がいつ見ても気持ちがよい施設を目指す
	実践結果	保護者や来訪者がいつ見ても、どこを見ても整理整頓されており、気持ちがよい施設となるように、日々の掃除は保育室の隅々まで行った。
	次年度方向性	保育室内の整理整頓は園の第一印象でもあるので、引き続き整理整頓されている施設を目指していきたい。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	自然食堂、自然学校、芸術学校、青空保育の充実を図る
	実践結果	参加者延べ人数31名（自然食堂14名、自然・芸術学校13名、青空保育4名）の地域の方が来訪してくださったが、前年度（2023年度）よりも参加者が減っている。 (11.子育て支援事業 参照)
	次年度方向性	活動の充実を図るとともに、地域の商店などにもポスターを掲示し、戸外活動や公園では地域の方と挨拶を交わし、園の存在を知って頂く。
2	計画・ねらい	地域の子育てをしている保護者が気軽に訪れ、相談できる保育園を目指す
	実践結果	駅に近いこともあり、園見学は81名訪れた。園見学の際は、園の様子を伝えるだけでなく、お子様の様子や育児不安を伺い丁寧な対応を心掛けた。玄関先に設置している勝手籠の存在に気付いてくださり、地域の方も利用する姿が多く見られた。
	次年度方向性	地域支援活動の充実を図るとともに、園見学に訪れた際は、丁寧に対応していく。
3	計画・ねらい	地域の子育て支援関係機関等との連携を図る
	実践結果	地域の方に園の存在を知ってもらう事は少しずつできているが、市役所や保健センターとの連携は図ることができなかった。
	次年度方向性	市役所や保健センターだけではなく、学校（小学校や中学校）との連携が図れるように、積極的に出向くようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自ら学びたいと思う向上心を持ち、様々な研修等に自発的に参加する
	実践結果	エリア研修では、他園の見ることで自園の課題を見付け解決に向かう力を身に着けた。スタッフ同士のコミュニケーションから、どんな事に興味関心を持っているのかリサーチをし、それに沿った研修があれば知らせスタッフの向上心へと繋げた。

	次年度方向性	次年度も、近隣園とエリア研修を行っていき、横の繋がりを深めつつ他園のスタッフと切磋琢磨し、向上心に繋げる。
2	計画・ねらい	大人のにんげん力を向上させる
	実践結果	園内研修や園会議でスタッフが講師となり得意分野や研修で学んだことをアウトプットすることで、自己変革に繋ぐことができた。それぞれが自発的に学び合ったものを共有し、話し合いを繰り返すことで学び合い、育ち合える集団となり、研修や会議では、スタッフ自らが手を挙げられるようになってきた。
	次年度方向性	引き続き園内研修や園会議を学びの場とし、大人のにんげん力 UP に繋げていきたい。
3	計画・ねらい	職員一人ひとりが園としての目標を共有しながら協働する
	実践結果	スタッフ一人ひとりが園全体としての目標を共有し、それに沿った目標設定(MBO)を立てることができ、協働する一つのチームとなって保育に当たり、質の向上に繋がった。
	次年度方向性	チーム保育の定着のため、スタッフが園目標を理解した上で目標設定(MBO)を立てられるよう施設長が舵を取る。また、スタッフが PDCA サイクルをうまく回るよう、定期的にフィードバック面談を行う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事を通じて、野菜の興味関心を育み、育てる喜びや調理する楽しさを味わい、食の循環を体験する
	実践結果	野菜等の栽培や収穫を通して、野菜が育つまでの過程や様々な食材に触れる機会を計画的に保育に取り入れることができた。夏の時期は酷暑ということもあり、畑に行く事も困難で野菜は殆ど収穫することができず、子どもたちは Trial & Error の経験をした。野菜の下処理で出た小松菜やホウレン草の根やピーマンの種を水耕栽培することで、子どもたちは野菜の再生に興味関心を持つことができた。
	次年度方向性	次年度も引き続き、畑仕事を通して育てる喜びや苦労を経験し、収穫や調理して食する楽しさを経験できるような保育を目指していく。
2	計画・ねらい	畑仕事や食育活動を通して「命あるものを食している」ということを子どもたちへ伝えていく
	実践結果	まな板にのらないくらいの大きさの魚をスタッフが捌き、鰯の手開きや鰯の三枚おろしの食育活動を通して、「命あるものをいただく」経験ができ、魚への興味関心が高まった。育てた食材で調理活動を行うことや調理過程の一部を手伝うなどの体験を通して、調理室における調理の様子を伺い知ったり、調理師等と一緒に食べたりする経験などを通じて、食材や調理する人への感謝の気持ちを育むことができた。
	次年度方向性	次年度も引き続き、野菜や果物、肉や魚等の食材を日々の生活の中で目にしたり、触れたりする機会を取り入れる。
3	計画・ねらい	環境(SDGs)への意識を身に付ける活動を行う
	実践結果	味噌や梅干しづくり等を行い、加工食品を作る体験を行った。 給食残渣70パーセント削減を目指し、調理工程のくずを減らすために出汁で使用した鰯節や昆布はふりかけにし、野菜くずは段ボールコンポストで堆肥を作った。午前中に目一杯身体を動かし遊ぶことでお腹が空くことで食欲が増し、給食残渣を削減することができた。 また、段ボールコンポストでできた堆肥は、畑の野菜栽培に使用することで食の循環を伝えることができた。

	次年度方向性	給食残渣を前年比50パーセントに減らす取り組みを行うと共に、SDGsを取り入れた保育を行っていく。
--	--------	---

〈6〉ホンモノに触れる

1	計画・ねらい	日本古来の伝統行事・四季を知り、感じる
	実践結果	節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、お月見など、日本の伝統行事の習わしや季節の行事食を子どもたちへ伝えることができたが、伝承遊び(あやとりやけん玉など)や季節の歌に親しむことが少なかった。
	次年度方向性	毎日、歌を歌って聞かせ、歌を知っている子・様々な歌を楽しく歌う子を育てるために、保育の中に季節の歌を取り入れていく。 大人が見せて教えないといちがい遊び(缶蹴り・ハンカチ落とし・あやとり等)を教えていく。
2	計画・ねらい	生活に必要な道具の扱い方を知る
	実践結果	生活に必要な道具(ほうき、ちりとり、シャベル、トング、スポンジ、ハサミ等)をスタッフが使って見せる環境を作り、日常の中で子どもたちも使う姿があった。しかし、危険なもの(刃物など)は、保育室がワンフロアで常に乳児も居ることから、子どもたちへ扱う経験を提供することができなかった。
	次年度方向性	引き続き、生活に必要な道具の扱い方をスタッフが使って見せて、子どもが使えるようになる。
3	計画・ねらい	火・水・土に触れる
	実践結果	移動保育を通して、火・水・土に触れる活動をすることができた。 しかし、洋服や手足が汚れることを嫌がる子どもも少なくないので、スタッフも泥まみれになって一緒に遊び、泥への抵抗がなくなるよう取り組んでいきたい。
	次年度方向性	泥んこ遊びの重要性を保護者にポートフォリオやお知らせで伝え、洋服が汚れることを理解していただき、移動保育の中で火・水・土に目一杯触れて遊べるようにする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況(延べ人数)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半: 4~9月	0人	30人	30人	30人	30人	30人	150人
年度後半: 10~3月	0人	30人	30人	30人	24人	24人	138人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	30人	39人	50人	51人	28人	41人	52人	65人	58人	75人	70人	70人	489人
うち0歳児	一人												

(解説) 18時以降の利用児童数を集計した。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うち0歳児	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(解説) 月極利用児童が定員を満たしており一時保育の受け入れが出来ず、利用なし。

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	4人	看護師	0人	栄養士	0人	調理員等	1人
パートスタッフ	保育士	3人	補助	0人				

※1月1日より常勤スタッフ(保育士)1名が、出産のため産休に入った。

※3月28日より常勤スタッフ(保育士)1名が、出産のため産休に入る。

3. 運営報告

①施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関する勉強会 ・園内研修 ・当月の行事計画の成果発表、次月の行事計画発表 ・人権チェック、虐待防止研修(年2回)
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・食育計画策定 ・食育活動実施内容 ・配膳方法 ・喫食状況(残食の記録簿)確認 ・検食簿指摘事項の改善
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・当月のヒヤリハット、インシデントの分析 ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディーと改善策策定 ・全園事故防止委員会での内容共有
ケース会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援児個別計画の振り返り及び省察 ・要支援児個別計画の見直し
朝礼・昼礼	毎日	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの出席確認、体調の確認、与薬の確認 ・アレルギー食の確認 ・活動内容の確認・振り返り ・伝達事項
クラス会議(週会議)	週1回	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども(個々)の発達 ・活動内容の振り返り、計画 ・伝達事項

②出席した施設外会議(Web 参加含む)

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回(5.8.11.2月)	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回(5.8.11.2月)	施設長

子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
-------------	-----	-----

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の衛生管理や備品の管理、衛生点検、清掃確認、感染症発生時の対応、検便
安全対策係	避難訓練の実施や安全な環境整備、事故防止点検、設備点検
防火管理者	消防計画の作成、避難訓練計画の立案、設備の防火管理
食品衛生責任者	食品の衛生管理、調理室の衛生管理、給食会議の開催
畠係	畠の管理、作物の栽培計画、保育実践
生き物係	生き物の飼育管理、保育への取り組み

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・立案・計画、地域・各関係機関への周知
朝霞市 彩夏祭係	地域活動の一環として有志の保護者の補助
子育て支援係	子育て支援、子育てサロンの計画と立案など

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・移動保育を利用し、火・水・土に触れ生き物の世話を参加した。汚れることもあるが、どろんこ遊びの必要性を伝えた。 ・運動会や生活発表会に於いて、異年齢での関わりを成長として伝えた。 ・毎日の日課に参加できるよう登園時間の協力をお願いした。 ・タイムラインの掲載を増やし園生活の様子をより広く伝えたことで写真購入の機会も増えた。
保育参加	4~3月まで 合計11名 が参加済み (2月28日時点)

保護者面談および発達相談	4~3月まで 合計7名 が参加済み (2月28日時点)
運営委員会	運営委員会を6月6日に当園にて実施し、参加した保護者3名 運営委員会を11月28日に当園にて実施し、参加した保護者3名 詳細は議事録に記載

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる
	実践結果	スタッフは子どもと一緒にテーブルに着き、子どもたちの食べる意欲を確認し、「おいしいね」などと会話を重ねコミュニケーションを図り、必要に応じて食事のマナーと伝えた。 一緒に食べることにより、食事が楽しい時間となり残食も減った。
	次年度方向性	どろんこ会の3大食育方針でもある「子どもと一緒に食べる」を深く理解し、継続していく。
2	計画・ねらい	噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する
	実践結果	それぞれの食材を十分に味わえるように、味が混ざりやすい料理は器を分けるなどの配慮をし、温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たい状態で提供した。
	次年度方向性	次年度も引き続き取り組んでいく。
3	計画・ねらい	子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる
	実践結果	食事は子どもが「食べたい」と思えるよう、ボウルやバットは使用せず大皿に綺麗に盛り付けた。子どもの手に合ったしゃもじやトングお玉を使用し、こぼしながらも自分で盛付・配膳をすることができた。乳児でも手先が器用になるとトングやしゃもじが使えるようになり、見様見まねで盛付を自分でして食べることができた。
	次年度方向性	子ども一人ひとりの個人差や活動量などに応じて盛付量を加減できるように工夫し、おかわりができるように提供する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	7月9日／10月17日に実施
歯科検診	6月17日に当園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施

スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回(全スタッフ対象)
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 手洗い指導 ② 歯磨き指導
流行した感染症	① 6月に手足口病…園児10名感染し、7月に終息 ② 8月にリンゴ、病溶連菌…園児6名感染し、8月末に終息 ③ 10月に手足口病…園児10名感染し、10月末に終息 ④ 1月にコロナウイルス…園児2名感染し、2月中旬に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日のキックオフ会議にてエピペン研修を受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ8名のうち、8名が使用可能
その他保健に関する取組	・流行しやすい病気の掲示、予防接種の確認、薄着の励行、嘔吐物の処理の仕方、おむつ交換手順、与薬ルールについて保育品質マニュアルに則り、確認とロールプレイ ・新型コロナウイルス感染症および他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及びJW園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み

	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月10日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／4月22日、10月10日 歯科健診 各年1回／6月1日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	足指で地面を捉える力を育てる
	実践結果	歩く・走る・跳ぶ・とび降りる・よじ登る・横や後ろに動くなどの運動感覚を育てるために、裸足保育を実践した。そのために保育室内や戸外（公園・園庭）の設備・安全点検を行った。 転んでも自分の身体を支えることが出来る徒手力を身に着けるために、また、自分の暮らす場所を自分できれいにするために、雑巾絞りや雑巾がけを毎日子どもと保育者が一緒に行った。
	次年度方向性	次年度も引き続き取り組んでいく。
2	計画・ねらい	子どもの「やってみたい」意欲を大切に、環境を整えていく
	実践結果	戸外では安全配慮をはじめ、子どもが遊びたい場所、遊びたい物を見つけられるように公園の行き先や活動内容を工夫した。保育室内は整理整頓し清潔に保つことを心掛けた。
	次年度方向性	次年度も引き続き取り組んでいく。
3	計画・ねらい	子どもが人と関わる力を育てる
	実践結果	複数の友だちと遊べる玩具やコーナーなどを設定すると共に、物の配置や子どもの動線などに配慮した。子どもが人とのやり取りを楽しみ、子ども相互の関わりや周囲の大人との関わりが自然と促されるような環境を整えていった。
	次年度方向性	次年度も引き続き取り組んでいく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具無し

5. 危機管理(防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ)

1	実践結果	【防災】…危機管理マニュアルNo.3の災害対策に則り、消防訓練、避難訓練、避難訓練開催通知、自衛消防訓練通知、防災自主点検、危機管理マニュアルの整備、自衛消防組織と安全対策係の設置、緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従って訓練が出来た。
2	実践結果	【ケガ事故防止】…危機管理マニュアルNo.3のケガ事故防止策、安全点検と保全に則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従って実施が出来た。
3	実践結果	【防犯】…危機管理マニュアルNo.3の不審者対策に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時には対応フローチャートに従って訓練が出来た。
4	実践結果	【光化学スモッグ】…危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行なながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応することが出来た。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は実習生・中高生の受け入れがなかった。

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー 自己採点	12日 8名	10日 8名	14日 8名	5日 8名	9日 8名	20日 8名	11日 8名	8日 8名	13日 8名	17日 8名	14日 8名	14日 8名
虐待防止研修	12日 8名						11日 8名					
園内研修	12日 8名	10日 8名	14日 8名	5日 8名	9日 8名	20日 8名	11日 8名	8日 8名	13日 8名	17日 8名	18日 8名	2日 8名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月13日	朝霞市役所保育課	保育園職員研修 『対話する保育の作り方』	2名	無
10月1日	朝霞市役所保育課	保育園職員研修 『運動発達と口の機能発達』	2名	無
11月	埼玉県	キャリアアップ研修 幼児保育・乳児保育・障害児保育	3名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

子どもたち、スタッフは地域の一員であり、園全体として地域に根付くことを意識して様々な活動を行ってきた。地域の方に園の存在を認識してもらえるよう、散歩の道中に通りがかる店先にいる店員や、通行する人と挨拶を交わし、公園で出会った地域の家庭との交流等を行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:根岸台6丁目児童遊園地公園にて

	参加延べ人数:4名
商店街ツアー	週1回 主な行き先:朝霞市役所、朝霞駅前交番、朝霞市立図書館、朝霞市中央公民館、埼玉県南西部消防局、東武ストア、業務スーパー、コモディイイダ、青山フランマーケット、花屋まるよし、うちで花園、アサカフローリスト、青柳、富久屋、3COINS、ドラッグセイムス、ウェルパーク、セブンイレブン、銀座コーディーコーナー、サンレモン、おとうさんのぱんや、石窯パン工房サンメリー、丸亀製麺、カネコイングス、すずまる農園、出雲大社埼玉分院、デンキチ等
異年齢交流	11月25日に朝霞市立第八小学校にて小学生との交流を実施
その他活動	・どろんこ祭り(7月13日) ・異文化交流…10月28日にガズル(飲食店)にてインドの食文化について学ぶ活動を実施 ・地域交流(1月~3月)…株式会社リゾンの『素敵なお通り活動』に参加。駐車場に飾るペットボトルランタン作り、プランターの花の水やり実施
銭湯でお風呂の日	月1回 <3~5歳児> 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

朝霞第八小学校見学を実施する。構内の案内もしていただき小学校の様子も目にすることができた。緊張しながら子ども達も小学校に期待を持った様子である。来年度に繋がる交流になった。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名(会場)	内容
11月25日	朝霞第八小学校	4名	小学校入学に向けて小学校見学	子ども間交流
1月31日	朝霞市 幼保小連絡会	1名	小学校入学に関わる情報交換会	職員交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象園児なし

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

今年度、対象園児なし

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

今年度、対象園児なし

Ⅺ. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10名	8名	19名	48名	9名	19名	66名	12名	10名	19名	8名	0名	224名

実施項目	詳細											
園開放	(月)～(土)9:30～16:30 にて実施 来園延べ人数:81名											
子育て相談	(月)～(土)13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み											
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水)10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	3名	0名	3名	0名	2名	0名	3名	3名	0名	0名	14名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(水)10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	3名	10名	0名	0名	0名	13名
勝手籠設置	(月)～(土)7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置											
ちきんえっぐ だより	毎月1日発行											
青空保育 (支援センタ ー主催)	月1回 公園名:根岸台6丁目児童遊園地にて 参加延べ人数											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名	0名	0名	0名	4名

I2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年10月18日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻: 8時30分

自己評価終了時刻: 17時00分

自己評価実施者: 施設長、当日出勤職員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日: 8月25日

アンケート回収率: 132%

(省察)

前年度に比べ、NPSスコアが上昇したことは大きな成果となっており、スタッフに対しての労いの内容が多かった。玄関が狭いことから、お迎えラッシュ時の対応を数名のスタッフで行ってほしい、お迎え対応の内容を充実してほしいなど、法人の特徴としてあげている3分間対応について改善を求める声があった。いただいたご意見をきちんと受け止め、園でできることを対応していく。

I3. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク(HP・メール・電話)、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ(事故含む)

報告すべきケガ(事故含む) 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日:2025年3月15日 作成者:メリーグランピング 朝霞東ローレム 施設長 中村 智美